

地域・分野等に関わる能力強化 のための新たなプログラムについて (提案)

稲場雅紀／石山民子／安村妙

グローバルヘルス市民社会ネットワーク（GHネット）／GHネット・連携推進委員／連携推進委員

議題提案の背景

- 科学技術イノベーションの進展とグローバルサウスでの急激な導入・普及、気候変動など地球規模の課題の深刻化、地政学的危機と各地域での政治的危機の拡大、また、開発に関わる国際的な資金拠出の仕組みや流れの大きな変化など、開発に関わるNGOを取り巻く環境は急激に変化しています。
- 一方で、現代の高度にデジタル化された社会に生まれ育った若者にとって、途上国の農村に生きる人々が自然資源や伝統的な共同体の中で営む生活は、上の世代に比べても、ますます縁遠く、想像しにくいものとなっています。こうした変化により、NGOが地域で課題に取り組む際に、現地の人々との関係で適切な「解」を導くことが難しくなっている状況もあります。
- こうした時代に、NGOが自らを適切に変化させながら、その役割を果たしていくためには、これらの課題に対する能力の強化、また、世代間の交流の促進と蓄積された知見・経験の承継と活用が必要です。これらの顕在的・潜在的ニーズを満たしていくために、NGOやそのネットワークが柔軟に立案・実施・評価を行える能力強化スキームの設置を提案します。

農業といえば増産・経済発展

今は生産性と環境の両面を考える時代



ヒ素汚染地域での稲作

**生産性を確保しつつ、節水、米に移行するヒ素の量を減らす実験
温室効果ガス発生抑制**

©アジア砒素ネットワーク

開発に関わるNGOを取り巻く環境は急激に変化

経済優先で行われてきた開発の
つけ（トレードオフ）→環境破壊
＋気候変動の影響



脆弱性を抱えるコミュニティを直撃

複雑化・深刻化する課題への解決策を限られた資源で考える

👉 継続的なNGO側の学びの機会是不可欠

👉 NGO×研究機関のコラボは有効性が高い

- ・ 海外ではNGOとの連携を必須条件とする研究助成も増えている。
- ・ 成果を学術的論文として発表することもインパクト拡大には重要。

「井戸」と聞いて何を思い浮かべますか？

日本の大学生

- ととろ・さだこ・こわい・きたない
- 「井戸」にはネガティブなイメージも、ポジティブなイメージも持てないほど身近なものではないです。昔話に出てくるもの、発展途上国の写真と見たときに写っているものです。

アジアからの留学生

- 「井戸」と聞いて思い浮かべるのは、水の源であり、地下から水を汲み上げるための施設だ。
- 井戸は、古くから人々の生活に欠かせない水の供給源として重要な役割を果たしていると思う。

水衛生といった暮らしの基本に関するリテラシーが著しく低下

（１）提案事項

上記の背景を踏まえて、市民社会の以下のニーズを満たす能力強化スキームを設置することを提案します。

- NGOが活動する分野（保健、水衛生、教育など）や地域（アジア、アフリカなど）に関わる多様な課題について、NGOが自らをアップデートしながら、効果的・効率的に取り組めるようになるために、以下の事業を行うためのスキームを設置する。
 - NGOの取り組む分野や地域における様々な課題に、上記の背景を踏まえて取り組むうえで必要な能力の強化や知見の収集、経験の共有のための調査・研究
 - NGOが適切な案件形成・実施・評価等を行う能力を身に着けるための研修の実施、複数の団体間での知見・経験の共有化
 - NGOの取り組みが、当該分野・地域において問題の解決に役立っているか、また、上記の背景を踏まえて、改善の余地がないかを検証し、より効果的な取り組みにつなげるためのモニタリング・評価

(2) NGOのニーズに応じて柔軟に対応するための方策

NGO活動環境整備支援事業には、NGO側の要望を踏まえて、制度改善が積み重ねられてきたものもあります。例えば、「NGOスタディ・プログラム」は、NGO職員の海外研修プログラムとして始まったものが、現在は「海外実務研修」「海外研修受講」「国内実務研修」「国内研修受講」の4パターンを有しています。こうした実例等も踏まえ、本スキームの設計については、期間、業務内容、資金について、いくつかのメニューを選択して実施できるようにするなどの工夫が必要です。以下はたたき台としての提案となります。

- 期間（例）： 1. 複数年度、2. 単年度、3. 半年間など。
- 業務（例）： 1. 研修・普及、2. 調査研究、3. モニタリング・評価など。
- 資金額（例）： 期間や業務等によって3つ程度のタイプに分ける（一定規模・中規模、小規模など）
- 設置形態： 上記のような形でNGOが柔軟に選択して実施することを可能とするような設置形態として、どのようなものがあるのか

4. 関連する質問事項

以下、当方からの質問事項は以下の通りです。

1. 本提案に関する民間援助連携室の認識を伺いたい。
2. 今後の具体的な進め方について意見交換、議論を行いたい。
3. 現在ある「NGO活動環境整備支援事業」の「NGO研究会」について、この提案の内容を踏まえて、より柔軟な運用ができるように見直す方法もあると考えるが、如何か。

5. 出席を希望する外務省部局または担当者

外務省国際協力局

民間援助連携室 岩上室長、

開発協力総括課

専門性を持ったNGO

現在のニーズ・先進課題・取組についての知見を高める、共有する・・・

研究、勉強会、
セミナー、評価

NGO研究会

分野・地域に関し経験の浅いNGO

必要情報・経験共有を
専門家・先行団体より

相談、伴走、研
修、人材交流

スタディー・イン
ターン・相談員

分野・地域に関心を持つ 市民・他セクター

関連情報を得る

相談・問合せ窓口、
一般向けセミナー

NGOのニーズに即した実施が可能なスキーム